

「さんか・さろん」ニュース

2019年12月1日

～お出かけさろん・練馬区～

「世界都市農業サミットへ」

11月の「さんか・さろん」は、変則的に12月1日（日）に開催しました。これは9月の「さろん」で妻木里恵さん（練馬区世界都市農業サミット担当課）、齊藤 睦さん（当NPO理事・地域総合研究所所長・練馬区専門調査員）からうかがった東京・練馬区の「世界都市農業サミット」へ実際に出かけようという試みでした。15人が参加し、別行動でご家族のご参加も数組ありました。

朝から練馬駅前の会場は、野菜を買い求める人で大賑わい。やはり人気は練馬大根です。配られるエコバックが大根のイラストで実におしゃれ！



すぐ買い物に走りたくらいですが、まずは齊藤さんから全体説明を。そして混まないうちに早速昼食です。「ねりまワールドフェスティバル」には各国の食べ物や雑貨がいっぱい。いかにも世界サミットというムードが盛り上がります。各人が異国の味を楽しみました。

その後、「ねりマルシェ」で花や野菜、ジャムなどの買い物も。



「サミット 国際会議」会場は満席で、立ち見が出るほど。都市農業への皆のお思いと注目が熱気となって伝わってきます。各国の都市農業の事例、練馬の事例が詳しく報告された後、サミット宣言が発表されました。

.....

～以下、練馬区ホームページに載っているサミット報告から引用させていただきます。～

＜世界都市農業サミット宣言＞

練馬区において開催された「世界都市農業サミット」において、都市農業を積極的に推進するジャカルタ、ロンドン、ニューヨーク、ソウル、トロントの参加5都市と練馬区は、都市農業に関する取り組みを相互に学び合い、情報共有を進め、活発な議論を行った。

私たちは、世界の人びとが農ある都市で暮らすことに誇りを持ち、持続可能で豊かな都市生活を送るために、以下に“都市農業”の意義と可能性を確認し、ここに宣言する。

1 “都市農業” は、いのちを育む

都市農業は、農産物の生産によって、都市に暮らす人間のいのちの糧を提供している。また、気候変動の緩和・適応のための重要な手段となりうる。それだけではなく、都市の持続可能性を高め、多くの生き物のいのちを育てている。

2 “都市農業” は、歴史と文化を育む

都市農業は、人と人とのつながり、そして、人と自然とのつながりを創り出す。そのつながりをもとに、都市の人びとは、歴史と文化を継承創造し、発展させている。

3 “都市農業” は、公正で開かれた社会を育む

都市農業は、誰もが等しく農に触れ、耕し、農の恵みを享受する場となりうる。それは、社会的課題を解決し、公正で開かれた社会を創り出す。

これからも私たちは、“都市農業”が持つ魅力や可能性を世界の人びとに発信していく。本



サミットで培ったネットワークを活かし、相互に連携しながらその可能性を拓き、新たな取り組みを広げることで、“都市農業”の発展に貢献する。

.....

会場全体でこの宣言を拍手で讃え、閉幕となりました。参加して、練馬の都市農業が、世界的にも希少な取り組みであること。それを我々は大事にし、誇ってよいこと、さらに、日本中の都市は練馬に学ぶべきであること、などを強く思いました。



都市のなかで当たり前前に農業がおこなわれることが、温暖化を食い止め、人の身体を健やかに、さらには、人のつながりをつくり、ストレスをなくし心を穏やかにする。気づきの多い「さろん」となりました。

(事務局 野口智子・記)